

※インターネット「はらまち九条の会」で、「九条はらまち」の全号を見ることができます。
※「はらまち九条の会」は会員約380名。党派をこえて会員を募集中です。年会費千円。



九条はらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 99

2009(平成21)年5月21日(木)発行

<80年前の1928年5月21日、野口英世は黄熱病の研究中感染し、アフリカのガーナで死亡。51歳>



○「今回の欧州大戦争は、世界人類の大禍災にこれあり、折角の文明も利欲の競争には煙のごとく消失し、いまさら人世の浅ましさをさとらせ申し候。日本も、ついにかかる喧嘩に引きこまれ、内には民力を損じ、外には敵をつくるのやむなきに至るならんかと思われ候。国家の威厳のため戦争の必要はこれあり候も、しかも、平和の方法にて同一の目的を達するは、戦争によれるよりも非常の偉功と思われ候」(大正3年、第一次世界大戦の手紙)

今こそ核兵器を廃絶し、戦争のない平和な世界を

南相馬市も6月市議会で「核兵器廃絶平和都市宣言」の再宣言

<合併前の原町市・小高町・鹿島町の「非核宣言」>

核兵器廃絶平和宣言都市

旧原町市の「核兵器廃絶平和都市宣言」

世界の恒久平和実現のために、核兵器を廃絶することは、人類共通の願望であり、緊急課題でもあります。

核兵器は人類と地球の運命を左右するにもかかわらず、新しい軍事技術の開発が続けられている。

わが国は、世界で唯一の被爆国として、非核三原則を国是とし、平和を愛するすべての国の人々とともに、人類の安全と生存のため不断の努力を続けるべきである。

原町市は、日本国憲法の精神に基づいて、核兵器の完全廃絶と軍備縮小を全世界に訴え、人類の願望である世界平和の実現を希求し、核兵器廃絶平和都市であることを宣言する。

以上決議する。昭和60年12月23日

旧小高町の「非核平和都市宣言決議」

世界恒久平和実現のために、核兵器を廃絶することが、人類共通の願望であり、緊急課題であります。

今や東西緊張の一翼であったソ連邦が崩壊し、核脅威論に基づく核軍備拡大路線は破綻したにもかかわらず、依然として核兵器の再配備が懸念されております。さらに、旧ソ連邦の核の行方が混沌としており、憂慮される状況にあり、この現象は人類の生存、世界の平和と安全に重大な脅威と危機をもたらしております。

日本は世界で唯一の被爆国として、また永久に戦争の放棄を誓った国民として、人類が再び同じ過ちを繰り返さないよう、核兵器の緊急廃絶と軍備縮小の推進に積極的な役割を果たすべきであります。

よって小高町は、平和憲法にのっとり、「非核三原則」を将来とも遵守し、すべての国の核廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し世界の恒久平和達成を希求するものであります。

ここに、非核平和都市となることを宣言する。

以上、決議する。平成4年3月27日

旧鹿島町の「非核平和町宣言に関する決議」

(宣言文は、上記旧原町市「核兵器廃絶平和都市宣言」の文言と同じ)

決議日は、昭和61年3月25日でした。

6月24日午後、南相馬市市議会では、上記の宣言を踏まえた新たな宣言文で「南相馬市核兵器廃絶平和都市宣言」を行う予定です。皆さんで市議会を傍聴したり、ご注目ください。インターネットでも中継されます。

▲南相馬市役所前の宣言の看板

合併前の原町市・小高町・鹿島町はそれぞれ、右のような「核兵器廃絶平和都市宣言」(非核宣言)を行っていました。しかし、新南相馬市の誕生でその宣言は消滅していったことが分かり、市内の4つの「九条の会」(小高・鹿島・相双教職員・はらまち)では、あらためて南相馬市として「非核宣言」を行うよう、今年二月十六日、市長と市議会議長宛に要請書を提出しました。

その経緯は「九条はらまち」No. 72・73で逐次お知らせしていますが、間もなく六月二十四日午後の市議会で、再宣言されることとです。私たち市民でしっかりと、市議会の審議を見守りましょう。オバマ大統領でさえ4月初めに「核のない世界を目指す」と宣言しているのですから、南相馬市議会が市民の生命を守る「平和宣言」や「非核宣言」が出来ないわけはありません。

核兵器を世界からなくすための映画ができました!



2005年7月、広島原爆で起きた火を、日本の僧侶たちが世界初の原爆実験の地である米国ニューメキシコのトリニティーサイトまで2500kmを運び、原爆の火をそこに戻して消し去ろうとするドキュメンタリー。が、「GATE」は果たして開かれるでしょうか。

この夏8月か9月に朝日産で上映会が予定されています。主催グローバル・イン・原町この映画はまた、「ランタンとつる」という絵本にもなっています。



A TRUE STORY

GATE

出演：マーティン・スコセッシー 日本語ナレーション：松嶋菜々子
監督：マツ・テイラー（世界核兵器解体基金代表）
（本編104分・DOLBY5.1）

大国による愚かな見栄

日本の軍事費世界7位

◆08年軍事費ワースト?テン

- ①アメリカ ②中国 ③フランス ④英国 ⑤ロシア ⑥ドイツ ⑦日本 ⑧イタリア ⑨サウジアラビア ⑩インド

●世界の軍事費の総額約144兆円。地球環境や災害救助、食料増産、医療、福祉などに振り向けるべきなのに、軍需産業が経済と強く結びついています。

●核兵器保有国は米ロシア仏英中インド・パキスタン・北朝鮮・イスラエル。イランに保有疑惑が。また北朝鮮の核やミサイル(ロケット)を日本では誇大に報道し、脅威を煽っています。意外とアメリカが冷静なのが皮肉です。

核兵器廃絶、戦争はもうやめよう 少ずつ希望は近づいている

○「米国は核兵器保有国として、そして核兵器を使ったことがある唯一の核兵器保有国として、行動する道義的責任がある。米国だけではうまくいかないが、米国は指導的役割を果たすことができる。今日、私は核兵器のない、平和で安全な世界を米国が追求していく約束を、明確に、かつ確信をもって宣言する」



プラハで演説するオバマ米大統領=AP

………**アメリカ合衆国・オバマ大統領**（4月5日、チェコのプラハでの演説）
●この演説に日本共産党志位和夫委員長は、核兵器廃絶への指導力発揮と実現を促す書簡を4月28日に送りました。すると、これまでの歴代の米大統領は全く無視し続けてきたのですが、オバマ大統領のアメリカ政府から志位委員長に返書を送ってきたということです。これは日本共産党創立以来初めての歴史的なことで、「チェンジ」を唱えるオバマ大統領ならではの一大変化と注目されています。時代は変わってきています。（6月5日付『朝日新聞』）

○「加藤周一さんは「核保有国と非核保有国との間に信頼関係がなければ、核廃絶は始まらない」と言ったが、そんな信頼関係などあるものかと笑いを浮かべた人もいますでしょう。例えば北朝鮮との間に。でも私は日本としてのやり方はあると思う。私たちが不戦の憲法を守り通す態度を貫くなら、信頼を作り出す大きな条件となるのではないか」 ……**作家大江健三郎さん**（5月2日、「九条の会」5周年記念講演会にて）



スピーチする富永幸英さん。左は祖母の岡田恵美子さん=5日、加戸写す

○「たった一つの爆弾で人々を苦しませ、死んでいく。そんなこと喜ぶ人なんていません。広島の子どもは原爆の恐ろしさを世界に伝える義務があります。広島の平和記念資料館を見に来てください」 ……**「広島の被爆3世・富永幸英ゆうきさん」** 1歳（5月5日、国連本部・国際NGO平和市長会議のスピーチ）

○「核廃絶を可能ならしめる思想の原点はあくまでも「核兵器は必要悪ではなく、絶対悪である」ことに求められなければならない」 ……**核物理学者豊田利幸さん**（5月15日死去。湯川秀樹博士らと核廃絶運動）



○「核廃絶の希望は何度も裏切られる。しかし、らせんを描くように、現実がすこしずつ希望に近づいていく」 ……**作曲家林光さん**（5月16日、第五福竜丸のピアノ五重奏曲初演にて）



○「50年前のアメリカは本当に野蛮で、人種差別によって多くの黒人が殺されていました。しかし、公民権運動を経て、今や黒人の大統領が誕生しています。奴隷制は姿を消しました。私は「これから200年たったら戦争はなくなる」と本気で言っています。いつでも揺り戻しはあると思います。私は、人間に思い入れがあり、人間という存在そのものは非常に素晴らしいと思います」 ……**ノーベル賞受賞の物理学者益川敏英さん**（雑誌『世界』7月号「非核の東アジアの実現を」）

○「唯一の被爆国日本の麻生首相こそ、唯一の核使用国のオバマ大統領と組み、世界の核保有国に向けて非核化、核廃絶を強く求め、実現に取り組むべきだ」 ……**ジャーナリスト田原総一朗さん**（6月13日付『朝日新聞』）